あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール 情報誌

THE PHOENIX HALL

Salon

Vol.95 2015年3月 春号

ホール2Fホワイエ壁面 ポール・ギアマン作「ダンサー」

CONTENTS

01 Prime Interview — ミハル・カニュカ
03 Phoenix Presents — Osaka Gutter Summer2015<福田進一と仲間たち Vol.6>
福田進一&フランシスコ・ベルニエール ジョイントリサイタル
05 Pick Up
06 Phoenix Spot — ホール音楽アドバイザーに聴く 2015年度おすすめ"presents"公演
07 Essay de say —「文化、経済を発信する国際都市"大阪"」飯森範親

あいおいニッセイ同和損保

室内楽でも活躍するチェコ出身の名チェリスト
ミハル・カニュカさん

フォルティッシモで豊潤な響きを聴かせたかと思えば、一転、ピアニッシモでは繊細な音色で囁き掛ける。それでいて、音の核が失われることは決してない。作品全体を俯瞰する見事な構成力の一方では、楽譜の裏の裏まで緻密に掬い取る洞察力も。多様な魅力に彩られたしなやかなプレーで、世界中の聴衆を魅了しているチェリストのミハル・カニュカ。チェコの名人集団プラジャーク・クヮルテットのメンバーとしても数々の快演を重ねて来た名手が、6月のティータイムコンサートに登場し、ベートーヴェンのチェロ・ソナタから第2番と第4番、そして第3番を弾く。「私にとって、ベートーヴェンは最も重要な作曲家。だが、同じ作曲家の作品でも、これら3曲には、明確な違いが存在する。作品ごとに、違ったニュアンスを表現したい」と語るカニュカ。持ち前の自在かつ鮮烈な表現力を武器に、3つの佳品それぞれの魅力に磨きをかけて、新たなベートーヴェン像の構築を目指す。
（取材・文：寺西 肇／音楽ジャーナリスト）

Michal Kaňka (Violoncello)　1960年プラハ生まれ。1983年プラハの春国際音楽コンクール第1位、1986年にはミュンヘン国際音楽コンクール最高位（第1位なしの第2位。第3位はジャン=ギアン・ケラス）。チェコ・フィル、バイエルン放送響、ベルリン・ドイツ響などの世界各国のオーケストラとの共演をはじめ、リサイタルや放送出演も数多い。またスプラフォン、プラーガ・デジタルズなどからリリースされているディスクは数々の栄誉を得ている。室内楽分野でもその活動は精力的でプラジャーク・クヮルテット、ベートーヴェン弦楽トリオのメンバーとして国際的に活躍。2014年からプラハの春国際音楽コンクール常任委員会議長も務めており、文字通りチェコを代表する世界屈指のチェリストである。

曲ごとの陰影 緻密な音で

Michal Kaňka

——今回取り上げる3曲は、約10年おきに作曲され、同じベートーヴェンのチェロ・ソナタと言っても、ずいぶん性格の違いがありますね。

ベートーヴェンのチェロ・ソナタと、例えば、彼の弦楽四重奏曲との間には、明確な共通項が存在します。しかし、この2つのジャンルを考えてみても、古典期のさなかにあった初期と、既に前期ロマン派の要素を先取りした中期、そして、一般的に「哲学的」と評される後期の作品とでは、はっきりと違いを認識することができます。これらの作曲時期を常に心に留めつつ、作品ごとに異なる“陰影”を表現しなければなりません。

——あなたにとって、ベートーヴェンとは。

最も重要な作曲家です。でも、白状すると、私のみならず、全てのチェリストにとっては、あくまで大バッハに続く存在としてでしょう。それは作品の持つ魅力だけではなく、私の楽器のために、より多くの作品を書いてくれたせいなのですが…(笑)。

——共演の三輪郁さんは、どんなピアニストでしょう。

三輪さんとは日本だけでなく、ヨーロッパのステージでも何度か共演させていただきましたが、とても心地よく、プロとしての共同作業を行うことが出来ました。私たちは友人として、お互いを理解し合っていますが、このことは、2人の演奏にとって、とても重要なことです。ベートーヴェンのチェロ・ソナタのピアノ・パートは非常に難しいのですが、彼女は技術的な完璧さはもちろん、とても創造的で音楽的に刺激し合えるパートナーになる、と確信しています。

——ザ・フェニックスホールの印象は。

ソナタのような室内楽は、小さな空間こそが適しています。そもそもベートーヴェンの時代、これらの作品は、様々な屋敷のサロンで披露されていたのですから。それに、室内楽に理想的な規模、何より、素晴らしい音響を考え合わせても、ザ・フェニックスホールは大好きな場所ですね。

——ところで、どうしてチェロを始めたのですか。

私の父はヴァイオリニストで、プラハ国立歌劇場のオーケストラの団員として、50年以上も弾き続けています。だから、私と2つ年上の兄にとっては、小さい頃から楽器を弾くことは、とても自然でした。そして、私が7歳の時、「カニュカ・ピアノ三重奏団」を結成することに。その時、兄は既にピアノとヴァイオリンを習い始めていたので、私は必然的に(笑)、チェロを弾かねばならないことに…。でも、今はとても有り難いことだったと思っていますよ。

——「弦の国チェコ」の伝統を意識していますか。

どの国にも必ず、とても優れた弦楽器奏者はいるものです。しかし、例えば、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団や、音楽史上に残る古いボヘミアの四重奏団、あるいはスメタナ弦楽四重奏団(※1)、大ヴァイオリニストのヨセフ・スークほか、多くのチェコ人の演奏家が紡いで来た、「チェコならでは」の特徴的な、温かく独特なサウンドが存在するのは確かですね。私もこの伝統を受け継ぐように精進してゆきたいし、私の弟子たちにも同じように努力してくれるよう、伝えてゆきたいと思っています。

——チェロを演奏する上で、最も大切なこととは。

どんな楽器にせよ、音楽を愛することが何よりも重要。そして、偉大な作曲家やその作品から、常に何かを学び取ろうとするのが肝心です。技術的には…『チェロを弾くのはたやすいこと。正確な場所に、正確なタイミングで指を置けばいい』…と言うのは、もちろん冗談ですが(笑)、かつて大バッハがこう語ったのだとか。

——たとえピアニッシモでも、決して芯を失わない表現力が印象的。何か秘密があるのですか。

秘密は何もないんです(笑)。私はただ、緻密なアーティキュレーション付けが好きなんです。リズムだけではなく、正確な“音創り”を心掛けること。これは、例えば、バッハの演奏の上でも、とても助けになるだけでなく、必須のことでもあります。

——愛用のチェロは、どんな存在ですか。

“木の女房”と呼んでいます。何せ、ホンモノの妻パヴリナよりも、長い時間を過ごすこともありますから。楽器を選ぶのには、自分が望むような美しい音が出るかだけでなく、手触りとか、もっと単純な…共に生活できるかとか、そこを見なくては。私の場合、この楽器と9年前に出会いました。それまでは、とても貴重で良い音のする1710年製ジョヴァンニ・グランチーニを弾いていたんですが、何せ300歳だけに、相手をするのに少し“疲れて”しまって…そんな時、幸運にもフランス人楽器製作家のクリスチャン・バヨンと友人になり、彼が私のために新しい楽器を作ってくれて、一目で気に入りました。これこそが、私の求めていた楽器でした。

——若い奏者たちに伝えたいこととは。

昨年から「プラハの春国際音楽コンクール」の責任者を務めている関係で、私は今、世界中の若く才能ある音楽家たちの演奏を聴く機会に恵まれています。その質は素晴らしいのですが、頂点を極められる人材となると、そう滅多には…。しかし、どんなレヴェルにあろうと、人である限り、音楽からは大きな贈り物を得ることができる。そう私は、励ましてあげたいと思っています。

——プラジャーク・クァルテットなどでは、室内楽奏者としてもご活躍ですが…。

私にとって、常に第一かつ最終的な目標とは、ソリストになることでした。しかし一方で、幼い頃から室内楽にも親しんできました。そして、私は今、両方の鍛錬を続けて来て、とても幸せだったと感じています。もちろん、双方のスタンスには違いも、それぞれ長所も短所もあります。しかし、私は自分の経験を通じて、それぞれの良い点だけを採り入れて、お互いをより充実させようとしています。さらには、プラハの2つの音楽学校で教えていることも、マスタークラスも、国際コンクールの審査も、すべてやるのは大変ですが、得るところも大きいんです。

——現代の作品の紹介にも精力的ですね。

演奏活動を続ける限り、果てしなく作品を勉強し続けることは必須。その必然性は、現代作品にも当てはまります。私の義父は作曲家のインドルジフ・フェルド(※2)で、私は、彼が書いたチェロのための作品を全て演奏しましたし、つい数日前には、アメリカの作曲家、クリストファー・ストーン(※3)によるチェロとオーケストラのための協奏曲の初演を、今年11月に引き受けることにしました。こうしたことは決して終わりのないプロセスですが、そのお陰で、私たちは新たなアイデアを吸収でき、常に未来に触れていられる。ただただ、感謝するしかありません。

——最後に。あなたにとって、チェロとは。そして、音楽とは。

チェロと音楽、そして家族は、私の人生のすべて。作曲家の美点と魅力を聴衆に届けることができるうちは、出来るだけ長く演奏を続けてゆきたい。そして、いずれ私は、良い聴衆となり、クラシック音楽の演奏会や音楽家の支援者ともなるでしょう。

※1　プラハ音楽院の卒業生たちにより、1943年に結成。1989年に解散されるまで、世界的な名弦楽四重奏団として活躍した。
※2　Jindřich Feld(1925〜2007)。チェコの国民的作曲家。カレル大学やプラハ音楽院に学び、ドヴォルザークの流れを汲む民族色あふれる作風で、子供のためのオペラからフル・オーケストラ作品まで、多彩なジャンルに200曲以上を遺した。
※3　Christpher L. Stone(1952〜)。ロサンゼルス出身、映画音楽などで幅広く活躍。

「カニュカのベートーヴェン —3つのチェロソナタ」は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザーの伊東信宏さん(大阪大学教授=音楽学)プロデュース公演。2015年6月26日(金)午後2時開演。ピアノは、三輪郁。入場料3,000円(指定席)、友の会2,700円。学生1,000円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時〜17時)。
[プログラム]
ベートーヴェン:チェロソナタ 第2番 ト短調 作品5-2、第4番 ハ長調 作品102-1、第3番 イ長調 作品69

■Kansai Soloists & Ensembles 19

2015年8月29日(土)

19:00開演　指定席
一般 ¥4,000(友の会価格 ¥3,600)
学生 ¥1,000(限定数)

情熱、哀愁、エキゾティシズム。スペインが生んだギター音楽、古今の白眉。

Osaka Guitar Summer 2015 ＜福田進一と仲間たち vol.6＞
福田進一&フランシスコ・ベルニエール ジョイントリサイタル

出演　福田進一、フランシスコ・ベルニエール(以上ギター)

曲目　ソル:モーツァルト「魔笛」の主題による変奏曲 作品9
マネン:幻想ソナタ 作品A22　ガルシア・アブリル:新作初演　ほか(予定)

＊都合により曲目などが変更になることがございます。予めご了承ください。

大阪出身、日本を代表する国際的ギタリスト福田進一プロデュースのギターフェスティバル。今年は、スペインの実力派フランシスコ・ベルニエールがゲスト。故郷セヴィリアで学んだ後、パリで名教師として知られるアルベルト・ポンセに師事、20ものコンクールで優秀な成績を収めた。現在は同国を軸に世界で活動を広げる。ソル、アルベニス、グラナドスといった往年の巨匠のほか、ガルシア・アブリルら現代スペインを代表する作曲家の作品を紹介。情熱の響きをお楽しみに。

©Luis Castilla

福田進一(ふくだ・しんいち／ギター)　大阪生まれ。パリ・エコール・ノルマル音楽院を首席で卒業。1981年パリ国際ギターコンクール優勝。デュトワ指揮N響をはじめ内外の主要オーケストラと数多く共演。今世紀に入り、既に世界20カ国以上に招かれリサイタルを開催し世界的な評価を獲得、2008年には福田進一に献呈されたブローウェルの協奏曲「コンチェルト・ダ・レクイエム」をライン州立響と世界初演、引き続き作曲家自身の指揮によりコルドバ管弦楽団(スペイン)、サンパウロ交響楽団(ブラジル)により再演され大成功を収めた。日本の優れた音楽文化を世界に紹介した功績により、平成19年度外務大臣表彰を受ける。教育活動にも力を注ぎ、門下からは鈴木大介、村治佳織、大萩康司といったギター界の実力派スターたちを輩出している。発表したCDは既に70枚を超え「セビリア風幻想曲」は平成15年度第58回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。代表作は「福田進一 アランフェス協奏曲」(共演:飯森範親指揮ヴュルテンベルグ・フィルハーモニー管弦楽団)、「オダリスクの踊り」「エチュード・ブリランテ」「タレガの作品集」「J・S・バッハ作品集1、2、3」、「ブエノスアイレスの冬～tribute to A. Piazzolla」。2013年にはナクソスレコードより「武満徹作品集」がワールドワイドでリリースされた。平成23年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。上海音楽院(中国)、大阪音楽大学客員教授。東京国際及びアレッサンドリア国際ギターコンクール審査員。

フランシスコ・ベルニエール(Francisco Bernier／ギター)　スペイン出身。セヴィリア高等音楽院でファン・カルロス・リベラ、セラフィン・アリアサにギターを学び、1994年フランスに移る。パリのエコール・ノルマル音楽院でアルベルト・ポンセに師事、満場一致の優秀な成績で演奏家ディプロマを得た。98−2002年、ドイツのケルン音楽大学やカナダ・ケベック大学、パリ国立高等音楽院で研鑽を積み、ローラン・ディアンス、レオ・ブローウェル、オスカー・ギリアといった名手の指導を受ける。96年、イタリアのミケーレ・ピッタルーガ国際コンクール優勝をはじめ、20ものギターコンクールで優秀な成績を収める。サル・コルトーやモガドール劇場などパリの名門はじめ、セヴィリアのトゥリーナ・オーディトリアム、サンクト・ペテルブルクのエルミタージュ美術館など約40カ国の舞台で演奏。放送への出演・録音も多い。現代作品演奏にも積極的で自国のホセ・マヌエル・ロペス＝ロペス、ルイス・デ・パブロといった自国の作曲家との協働が多い。日本の関谷尚美の「2台のギターと管弦楽のための協奏曲」をケント・ナガノ指揮バークレー響で世界初演。セヴィリア王立音楽院で教鞭を執る。セヴィリア・ギターフェスティバルを創設し現在、芸術監督。

福田進一&フランシスコ・ベルニエールによるギター公開マスタークラス受講生募集

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、2010年から日本を代表する国際的ギタリスト・福田進一氏のコンサートを主軸に据え、さらに公募と福田氏の審査により若きギタリストを育成する公開マスタークラスを行ってきました。2015年度も公開マスタークラスに参加する受講生を募集します。

■講師　福田進一、フランシスコ・ベルニエール(以上、ギター)

■開催日程　2015年8月29日(土)、30日(日)

＊公開マスタークラス受講生の方には、修了コンサートにもご出演いただきます。

■会場　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

■募集部門　ソロ部門(4名)

■応募資格

プロの演奏家を志望する、年齢30歳まで(2015年8月31日時点)のギタリスト。専門的教育を受け、また、コンクールに上位入賞するなど外部組織による高い評価を受けている者。

■選考方法　応募資料等により、福田進一氏が選考します。

■参加費

公開マスタークラスの受講料は無料。ただし、参加に伴う交通費や宿泊費、楽譜などは自己負担とします。

■応募締め切り　2015年7月6日(月)

＊詳細は、募集要項、当ホールホームページでご確認ください。

■お問い合わせ・募集要項の請求

〒530-0047　大阪市北区西天満4-15-10
あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
「大阪ギターサマー」事務局

TEL　06-6363-0211　FAX　06-6363-1124

E-mail　concert@phoenixhall.jp　URL　http://phoenixhall.jp

3月6日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

3月9日(月)
10:00 受付開始
E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

3月10日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは**3月11日(水)10:00**から！

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ74　　主催：中川岳リサイタル実行委員会

2015年10月7日(水)

中川岳 チェンバロ・リサイタル

共催公演

18:30開演　自由席
一般前売¥1,500(友の会価格¥1,350)
一般当日¥2,000(友の会価格¥1,800)
学生前売・当日¥1,000

出演　中川 岳(チェンバロ)

曲目　L・クープラン：組曲 ヘ長調
J・J・フローベルガー：ブランクロシェ氏の死に寄せるパリで書かれたトンボー
G・ムッファト：パッサカリア ト短調、シャコンヌ ト長調
G・ベーム：組曲 ヘ短調
J・P・スウェーリンク：ヘクサコルド・ファンタジア
D・ブクステフーデ：アリアと変奏 イ短調 BuxWV249
J=H・フィオッコ：クラヴサン曲集 より
J・S・バッハ：クラヴィーア練習曲集第1巻より パルティータ 第4番 ニ長調 BWV828

使用楽器：安達正浩氏製作 1733年
ブランシェのモデルに基づく二段鍵盤

J・S・バッハ以降の音楽、一般にクラシックと聞いて連想される音楽を月の表とするなら、チェンバロ音楽の中心は普段聴かれることの少ないバッハ以前の音楽、月の裏です。しかし、そこには人知れず輝く秘宝の数々が転がっています。今回の演奏会では、独学でチェンバロを学び国際コンクールで優勝した若手が、チェンバロの広大なレパートリーの中から、古きよき名曲を精選してお届けします。
チェンバロは、美しく演奏するためには計り知れない技術と集中力を要する大変難しい楽器です。演奏技術の不十分さは直に音となって現れ、この楽器に「ピアノより表現力の乏しい楽器」という不名誉な形容を浴びせかけられることも多々あります。しかし、確かな技術と、音楽への深い洞察を兼ね備えた奏者であれば、聴き手はこの楽器から紡ぎだされる音楽の美しさ、繊細な表現の奥深さに魅了されることでしょう。どうぞご期待ください。

中川 岳(なかがわ・がく／チェンバロ)
1993年三重県伊勢市出身。4歳よりピアノを始める。中学3年のとき、第61回全日本学生音楽コンクール名古屋大会本選ピアノ部門中学校の部第1位受賞、並びに全国大会出場。中学の頃よりJ・S・バッハの音楽、またバロック時代の演奏習慣に興味を持ち、以後、より古い音楽へと関心を広げる。2011年頃より独学でチェンバロを始め、その後クラヴィコードとオルガンも始める。2014年5月、第27回国際古楽コンクール＜山梨＞において、鍵盤楽器部門としては第17回以降初めての第1位を受賞。同コンクールの委員長で音楽学者の荒川恒子氏の厚意により、同年9月後半にドイツ・ヴュルツブルクにおいて、同コンクールの審査員を務めたヴュルツブルク音楽大学教授グレン・ウィルソン氏(チェンバロ奏者・指揮者)に約10日間のレッスンを受ける。
伊勢高等学校を卒業後、現在東京大学教養学部後期課程に在籍。主たる学問上の関心は哲学、政治・社会哲学。

フェニックス・エヴォリューション・シリーズは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の芸術文化支援活動の一つです。同社が運営するあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(大阪・梅田)での公演企画を公募、審査で選ばれた方にホールと付帯設備を無料で貸与致します。

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999
土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00

■ザ・フェニックスホール友の会優先予約
・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

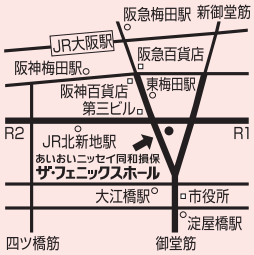
■一般発売
・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

http://phoenixhall.jp/
チケットセンターのページからお申込みください

■インターネット予約 (主催公演のみ)
・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店によるお申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法
下記①または②のどちらかとなります。

①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。
営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00～17:00です。
②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座　00940-0-95351　　加入者名　ザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。
当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 コンスタンチン・シェルバコフ ピアノリサイタル

主催　プロ アルテ ムジケ

発売中

2015年5月8日(金)　19:00開演　指定席　一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500)　学生前売・当日¥3,000

©Juri Junkov

出演　コンスタンチン・シェルバコフ(ピアノ)

曲目
ベートーヴェン：ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2「月光」
　　ピアノソナタ 第23番 ヘ短調 op.57「熱情」
ショパン：序奏とロンド 変ホ長調 op.16
　　バラード 第3番 変イ長調 op.47
　　アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 op.22

ロシアを代表する現代の技巧派ピアニスト。1983年第1回ラフマニノフコンクールで優勝を果たし、ルツェルン音楽祭では「現代のラフマニノフ」と賞賛を受けた。多くの難曲を録音し、ショパンコンクールの覇者ユリアンナ・アヴデーエヴァをはじめ、門下からは多くの著名ピアニストを輩出している。ベートーヴェンの傑作ソナタ「月光」と「熱情」、ショパンの「バラード3番」や「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」など名曲プログラムをお楽しみ下さい。

協賛公演 猪居 謙 & 猪居亜美 コンサート

主催　猪居ギター教室

3/2(月)発売

2015年6月5日(金)　19:00開演　自由席
一般前売・当日¥3,500(友の会価格¥3,150)　学生前売・当日¥3,000　※友の会割引は1会員2枚まで。

出演　猪居 謙、猪居亜美(以上ギター)

曲目
(猪居亜美　ソロ)
トゥリーナ：セビリア風幻想曲
シューベルト(メルツ編)：
　涙の賛美、セレナーデ、郵便馬車
ヴィラ=ロボス：エチュード 第7番
レニャーニ：カプリス 第7番
ヒナステラ：ソナタ op.47

(猪居 謙　ソロ)
メルツ：エレジー
ロドリーゴ：ソナタ・ジョコーサ
ブローウェル：ハープと影
リョベート：ソルの主題による変奏曲

共に、ギター音楽大賞グランプリ(第1位)、大阪府知事杯を受賞し、国際コンクールでめきめきと頭角を現す、猪居謙、猪居亜美兄妹。注目と期待を集める二人が、奇しくも同時にソロデビューCDを発表、その発売記念ジョイントリサイタルを開催します。デュオリサイタルではなく、それぞれがコンサートの前半と後半で自分の音楽をアピールします。大器を予感させる、フレッシュな二人の演奏を一夜で楽しめる、熱いコンサートになることは間違いありません。是非ご来場ください。

協賛公演 ミュージック・シェアリングICEP報告コンサート 五嶋みどり & Young Artists

主催　認定NPO法人
ミュージック・シェアリング

3/31(火)発売

2015年6月10日(水)　19:00開演　指定席
一般前売・当日¥6,000(友の会価格¥5,400)　※友の会割引は1会員2枚まで。　※未就学児入場不可。

©T. Sanders　©Eiji Shinohara
©Christian Steiner　©Glenn-Triest

出演　五嶋みどり、弓 新(以上ヴァイオリン)
　　ファイト・ヘルテンシュタイン(ヴィオラ)
　　トニー・ライマー(チェロ)

曲目
モーツァルト：弦楽四重奏曲 第21番 ニ長調 K575
シュルホフ：弦楽四重奏曲 第2番 変ロ長調 WV77
グリエール：ヴァイオリンとチェロのための8つの小品 op.39
ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」op.96
※やむを得ない事情により、曲目・曲順が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

ヴァイオリニストの五嶋みどりが理事長を務める認定NPO法人ミュージック・シェアリングでは、国内外の子どもたちに音楽の喜びを届ける様々なプログラムを実施しています。活動の一つ「インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム(ICEP)」では五嶋みどりが若手演奏家とカルテットを組み、音楽を通して子どもたちと交流します。今回のコンサートでは、これまでのICEPを振り返り、ミュージック・シェアリングの活動についてもご紹介します。カルテットの演奏とともにお楽しみください。
※フェニックスタワー27階の"ダイナミックキッチン&バー燦 -SUN-"(大阪)のご協力で、『コンサート当日のみ 来聴者限定 ご優待ディナープラン』を特別価格でご用意いたします。(要予約)
◆ディナープランの詳細については店舗へお問い合わせください。Tel:050-5798-4337

協賛公演 山田剛史ピアノリサイタル ～音の遊び～ Play of Tones

主催　iroha

発売中

2015年7月20日(月・祝)　14:00開演　自由席
一般前売・当日¥3,500(友の会価格¥3,000)　学生前売・当日¥2,000　※友の会割引は1会員2枚まで。

©篠原栄治

出演　山田剛史(ピアノ)

曲目　ハイドン：ピアノソナタ ト長調 Hob.XVI:40
　　ドビュッシー：練習曲集より
　　ヒンデミット：ピアノ音楽 op.37 第1部
　　「3つの小品による練習」
　　J・S・バッハ：トッカータ ハ短調 BWV911
　　カーター：2つのダイヴァージョン (1999)
　　ショパン：ピアノソナタ 第3番 ロ短調 op.58

「音の遊び」、すなわち"Ludus Tonalis"というタイトルの作品を、1942年にヒンデミットは書きました。純粋な「音の運動」、そして音と音との「関わり合い」に焦点を当てた演奏会をしたいと思いました。不確かなことが多すぎるこの世界の中で、音の純粋な『確かさ』というものが与えてくれる喜びは、計り知れません。「遊ぶ」と「演奏する」は、英語の"play"、ドイツ語の"spielen"など、しばしば同じ言葉によって表現されます。ハイドンやドビュッシーの中には、よりジョークやユーモアが、ヒンデミットやバッハの作品には、より構築性やパズルの楽しみが強いですが、それぞれ逆の要素も併せ持っています。バッハからカーターまで、300年の時代を超えた「音」たちが、皆様に喜びをもたらしますように！

ホール音楽アドバイザーに聴く

2015年度おすすめ “presents”公演

©Marco Borggreve

今井信子氏
（ヴィオラ奏者）

伊東信宏氏
（大阪大学教授＝音楽学）

12／1（火）　5月発売予定

今井信子 presents
ロマンティック・トリオ〜クラリネット・ヴィオラ&ピアノ

ハレヴィさんは奏者としても、先生としても非常に高い評価を受けている方で、ドイツ系のクラリネット奏者ではない彼が、トロッシンゲン音大の教授になったときは、音楽仲間の間で大きな話題となりました。このことからも、国ごとのスタイルといったものを越えて彼がいかに優れた音楽家であるか伺い知ることができます。キムさんは、ホールのお客様にも既にお馴染みですが、彼の軽やかなピアノがまた聴けると思うと、今から心が躍ります。今回が初めてとなるこの3人の組み合わせ、どのような音楽が生まれるか、私自身も非常に楽しみにしています。

2016年 1／29（金）　発売中

今井信子 presents
ウェンティン・カン 無伴奏ヴィオラリサイタル

ウェンティンさんの音楽は、2年半前の第2回東京国際ヴィオラコンクールで優勝して以来、目覚ましい成長を続けています。生来の初々しさに加え、自身の主張と音楽観がより明確になり、演奏に貫禄が出てきました。ある日レッスンの後に、彼女が「先生のためにどうしても弾きたい曲があります。私にとってバッハは日常の糧であり、音楽家として生きて行く究極の目的なんです。」といってバッハを聴かせてくれました。
ホールのお客様にも彼女からのプレゼントをぜひ受け取って頂きたいと思います。音楽にひたむきな彼女に心からの声援を送ります。

6／26（金）　発売中

伊東信宏 プロデュース カニュカのベートーヴェン—3つのチェロソナタ

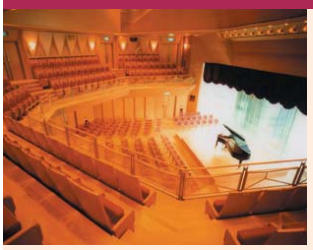
ミハル・カニュカさんも三輪郁さんも、単独ではすでにこのザ・フェニックスホールの舞台に登場してくれました。カニュカさんは、オーソドックスでしかも俊敏さも持ち合わせたチェロ奏者で、今やチェコを代表する音楽家と言えます。一方、三輪さんは音楽的にはウィーン育ちとも言えるピアニストで、フレキシブルですが芯のはっきりした演奏が魅力です。この二人の中欧的音楽家の組み合わせで、今回はベートーヴェンのソナタを聴きます。チェロのレパートリーの中核を成す作品群ですが、中欧の室内楽の伝統を内側から知っている二人だからこそ、といえる親密な音楽が期待できそうです。

2016年1／23（土）　7月発売予定

レクチャーコンサート 伊東信宏 企画・構成
ピアノはいつ、ピアノになったか？補遺「ドビュッシー ピアノの謎」

以前3年かけて行った「ピアノはいつピアノになったか？」というレクチャーコンサートのシリーズの補遺として、今回はドビュッシーを取り上げます。ドビュッシーは、もちろんピアノ音楽に新しい局面を開拓した作曲家で、フランスのピアノももちろん愛用していたようですが、意外なのはドイツのブリュートナーという楽器と縁が深かった、というところです。共鳴弦を備え、強く豊かな響きを持つこの楽器でドビュッシーの音楽が構想されたとすると、彼の作品に対する見方も異なってくるように思われます。フランスやスペインの音楽に造詣の深い椎名亮輔さんのお話と、そしてフランス音楽の演奏に新しい風を吹き込む野原みどりさんの演奏でお楽しみください。

夢の公演、募集中。大阪・梅田 フェニックス・エヴォリューション・シリーズ



2016年5・7・10月／2017年1月　ホール無料提供

あなたの公演プランを舞台で実現してみませんか？

当ホールが公演企画を公募し、審査で選ばれた企画者にホールや付帯施設（基本費）を無料で提供します。併せてホールスタッフが公演開催のお手伝いもする公演共催事業です。企画者には公演開催のための様々な仕事に取り組んでいただき、ホールは共催の立場で支援を致します。芸術性やアイデアに恵まれながらも、発表の機会をなかなか得られずにいる国内外のアーティストの方々からの、ユニークな企画をお待ちしています。

●ホール提供日	**2016年　5月18日（水）・7月6日（水）・10月5日（水）／2017年1月21日（土）**
●対象	プロ・アマチュア・ジャンル・年齢　問いません。学生の方や、海外在住の方も歓迎いたします。
●審査基準	◇ 企画内容が明確で、高い音楽性を備えている　◇ 室内楽ホールに適し、かつユニークである ◇ この公演を機会に発展が期待される
●選考アドバイザー	当ホールが委嘱する音楽評論家・新聞記者・研究者の方々（5名）
●特典	公演後、当ホールを利用される場合には、ホール協賛公演としてホール使用料金の特別優遇制度が適用されます。
●応募方法	**①応募用紙　②音資料（CD）　③過去の公演パンフレットなどの資料** **④映像資料（DVD／映像・画像を使用する公演のみ）**を揃えて、郵送または直接事務局までご提出ください。
●応募締切	**2015年6月23日（火）18:00 必着**
●審査結果	2015年8月末頃、郵送で通知します。
●資料請求・応募先	**〒530-0047　大阪市北区西天満4-15-10** **あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール「フェニックス・エヴォリューション・シリーズ企画募集」事務局** **TEL　06-6363-0211　　FAX　06-6363-1124　　E-MAIL　concert@phoenixhall.jp** **HP　http://phoenixhall.jp/**

文化、経済を発信する国際都市“大阪”

―飯森範親

Keizo Matsui

日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任してから、4月でちょうど1年を迎えます。

これまでも大阪をはじめとする関西圏では、デビュー以来、数え切れないほどのコンサートを指揮させていただいてきました。私がプロの指揮者としてデビューした初の舞台が大阪ですし、この1年でこれまで以上に関西の皆さんと密な時間を共有できていること、大変うれしく思っています。

大阪は日本が世界に誇る国際都市です。日本を代表する企業の本社が多数あり、様々な業種の皆さんの強固な結束力により、文化や経済が発展しているように感じます。

世界的にもすばらしい音響のホールが多数あり、その運営を企業の皆さんがされてらっしゃるということは誇るべきことですね。自分たちが文化を支えているという強い思いを皆さんがお持ちなのではないでしょうか。

私が大阪の発展を強く感じるものがあります。それは音楽とは関係ないのですが、移動がとても便利なことです。

演奏会は勿論ですが、指揮者という職業は移動も大事な仕事の一つです。大阪は飛行機、新幹線で関東や九州に短時間で簡単に足を運ぶことができます。

全国各地で年間100公演近くコンサートを指揮させていただいている自分にとってとても大切なことですし、助かっていますね。短時間でストレスなく移動できますし、精神的にもゆとりをもって次のコンサート、リハーサルへ向かうことができます。僕以外の音楽家のみなさんも同じように感じていらっしゃるかもしれません。

大阪にはプロフェッショナル・オーケストラが4つありますが、私は「オーケストラ同士が敵対するのではなく、お互いの魅力を存分に発揮できる環境を作りたい」という強い信念のもとこの1年、日本センチュリー交響楽団の皆さんと一緒に活動してきました。

オーケストラには、その団体ごとの個性があり、そこが1番の魅力でもあります。

2014年シーズンは日本センチュリー交響楽団と関西フィルハーモニー管弦楽団の皆さんと「大坂秋の陣」という画期的な企画が実現できましたし、数年ぶりの東京公演、創立25周年記念演奏会をはじめ大切な演奏会にたくさんのお客様にご来場いただきました。

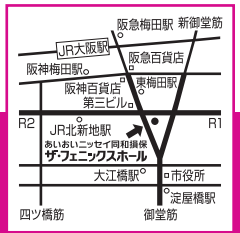
大阪の多種多様な文化、いろんなジャンルの皆さんのご意見を吸収し、これまで以上に関西発の音楽文化を発信し、全国を盛り上げていきます。

4月からもおもしろいコンサートがたくさんありますよ。大阪の皆さん、これからもよろしくお願いします！

©川崎 領

飯森範親(いいもり・のりちか)／指揮者

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督（GMD）に着任し、日本ツアーも成功に導いた。国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、現在は正指揮者。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、07年より山形交響楽団音楽監督に就任。2014年4月より日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任。
オフィシャル・ホームページ　www.iimori-norichika.com



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F　TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月　2015年3月
発　　行　あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編　　集　吉元 晃
デザイン　松井桂三有限会社